

第2学年2組国語科学習指導案

指導者 苧坂 恭子

1 日 時 令和4年6月10日（金）13：10～14：00

2 単 元 名 「走れメロス」（太宰治）

3 学 習 空 間 2年2組教室

4 単元（題材）について

（1）本教材「走れメロス」はフリードリヒ・シラーの詩である「人質」を基に、太宰治が創作を加えたり、書き換えを行ったりして作られた小説である。楽天的で人を信じる男メロスと、人は疑う者だと考える王ディオニス。この二人の考えは相容れることなく、メロスは親友であるセリヌンティウスを人質として、王に信実の存するところを証明しようとする。

この小説では一見、メロスが善で王が悪という対立の構造を描いているようにも思えるが、心情や表情の描写に注目して読んでいくことで、メロスにも人間としての心の弱さや葛藤があることが分かる。王はそんな人間の醜い部分を見抜き、信実の存在を否定する。メロスは、立ち足る数々の困難を前に、信実を貫き通すことの難しさを知る。誘惑に負けたり、自分を正当化したり、友を裏切ろうとしたり、と人間らしい葛藤や苦しみを味わうが、最後は自身の弱さに打ち勝ち、友のために走りきることを決意する。作品中の表現を細かく吟味していくことで「正義」「友情」といった抽象的な概念だけでなく、人として生きていくことの苦悩について共感的に読みを深めることができる題材であると考えられる。

そこで、本単元では、メロスの心の変化に注目させ、作品を読み進めていく。そしてメロスが様々な困難を乗り越え、最後の力を振り絞って友が待つ刑場に走り出したときに突然出てくる、フィロストラトス。この男の存在は何を意味しているのか。この男とメロスのやりとりの描写は作品にどのような影響を与えているのか。言葉を手がかりに読みを深めていき、作品の言葉を根拠として、生徒が作品の解釈を広げていくことをめざしたい。

（2）本学級の生徒は男子20名、女子15名の合計35名である。「走れメロス」について「読んだことがある」と答えた生徒は9名（25.7%）であり、「読んだことはないが、あらすじは知っている・名前は知っている」と答えた生徒は26名（74.3%）であった。作品のテーマについて、初読後のアンケート（N=35）で「友情」と答えた生徒は28名（80.0%）でもっとも多く、次いで「人を信じることの大切さ」（類答含む）と答えた生徒は3名（9%）であった。

「一番印象に残った人物」については「メロス」と答えた生徒が30名（85.7%）と8割を超えており、「印象に残った理由」として、「友情を貫き通したから。」、「暴君であるディオニスの心を変えることができたから」、「困難を乗り越えて信実を証明したから」といったものが挙げられた。次いで「セリヌンティウス」と答えた生徒が3名（8.6%）、王ディオニスと答えた生徒が2名（5.7%）であった。以上より、生徒の「走れメロス」に対する生徒の「当たり前」を「『走れメロス』の主人公であるメロスは親友セリヌンティウスのために走り続けた。また親友もメロスを信じ、3日間待ち続けたこの話は信じ合う二人の姿を通して読者に「友情」の大切さを伝えたかったのだろう。」と設定した。

（3）本単元（題材）を指導する（個の「ものがたり」を深める）にあたって、次の点に留意したい。

- ・ 語り合いの前段階として、自分の考えを文章表現してまとめる時間を確実にもつ。また、考えをまとめる際には必ず本文の言葉を根拠とし、理由とともに記述させる。
- ・ 自己の学びを意味づけしたり、価値を実感したりするために、学びの出口、また次の学びへの出発点として作品に対する批評を書かせる。
- ・ 「ものがたり」の表出方法として、ストーリーマップやキャラクターマップを書き、授業ごとに更新させる。これらの思考ツールは自分の考えと対立する考えとを比較・整理し、また異なる考えをもつ他者との対話の中で生まれた疑問や意見を明確にできるため、自身の考えの深まりや変容を実感させる上で有効であると考えられる。

5 本単元の目標

(1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）
何気なく出てくる登場人物にも意味がある

●題材（「走れメロス」）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）

「走れメロス」の主人公であるメロスは親友セリヌンティウスのために走り続けた。また親友もメロスを信じ、3日間待ち続けたこの話は信じ合う二人の姿を通して読者に「友情」の大切さを伝えたかったのだろう。

探究的な学び
他者と語り合う

（学習後）

作品の中で、メロスは挫折したり、友を裏切ろうとしたりしたが、最終的に自身の弱い心に克ち、友のために走った。この話はメロスの心の成長の物語なのかもしれない。

《（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例》 *「自己に引きつけた語り」部分

はじめ、この話を読んだとき、友を信じて走るメロスと、メロスを待つ友の姿がとても印象に残った。2時間目の授業で登場人物を確認したときに、「走れメロス」にはたくさんの人が出てくることに気がついた。メロス、セリヌンティウス、ディオニス、この3人が一番重要でそれ以外はいてもいなくてもいいと思った。学習が進んでいくうちにメロスの人物像が変わった。はじめは、正義感が強く超人のように感じたメロスだが、今思うと、メロスも弱かったり、心が折れたりする場面があった。この作品には友情はもちろんだが、メロスの成長も描かれていて、メロスの弱さや困難を乗り越えてかけ出すシーンを改めて読むと、はじめ読んだときとはちがう感動があった。そして最初にいらなかったと思っていた登場人物たちの重要性にも気づくことができた。メロスを成長させたのは、私をはじめ、「いない」と思っていた人物たちなのだ。フィロストラトスも必要ないと思っていた。けれど、授業で考えていくうちに彼がいることでメロスは自分を待つ友の存在に気づくことができ、メロスの走る意味が変化したと考えるようになった。

登場人物が出てくるということは、そこには必ず意味がある。別に話には大きく関係しないし…と読み飛ばしていた登場人物たちも、出てきた、ということは、きっと作者が意図をもって「登場させた」のだ。このように考えると、作品の世界がもっともおもしろくなる、と感じた。

(2) 本単元で育成する資質・能力

知識 技能	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	・作品に出てくる「友情」や「信じる」といった一般性の高い語句や、「信実」、「正義」といった抽象度の高い語句が作品の中でどのように用いられているか、文脈に即して考えることができる。
思考 判断 表現 力 等	・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	・作品の終盤に出てくるフィロストラトスの言動の意味について考え登場人物の心情の変化を捉えることで、作品全体の解釈を深めることができる。 ・本文の表現に注目し、根拠の適切さを考えて言葉を読み、自分の解釈を文章表現できる。
学びに向かう力 人間性 等	・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	・意欲的に作品や他者とかわり学ぶことを通して、登場人物の変化や作品の主題などに対する深い理解を通して言葉がもつ価値を認識するとともに、自分の考えや思いを伝えることができる。

(3) 単元構成 (全7時間)

時間	◆学習内容と学習課題(中心の問い)	生徒の思考・反応・振り返り
1	<p>◆「走れメロス」を読んで気づいたこと、思ったことを書け。</p> <p>「走れメロス」はどんな話かな？</p>	<p>メロスが友のために走る話。きっと作者は、友情について描きたかったんじゃないかな。</p> <p>とても長い話。登場人物も結構多いし、場面も色々変わって読みにくい。</p>
2	<p>(学習課題①)「走れメロス」を三文でまとめると？</p> <p>◆「走れメロス」の登場人物を確認する。</p> <p>この作品の登場人物はだれかな。</p> <p>今、登場人物を挙げてくれましたが、その登場人物に、この作品を説明する上で絶対必要な、と思う順番をつけてみましょう。</p>	<p>メロス、王様、セリヌンティウス、メロスの妹、一人の少女、フィロストラスかな。</p> <p>登場人物は多いけど、必要じゃない人が多いよ。メインになる人だけでいいのに。</p> <p>1番がメロス、2番は王様、3番はセリヌンティウスかな。この三人は絶対必要。でも残りの人は、ちょっと優先順位がつけづらいな…。</p>
3	<p>(学習課題③) メロスは勇者といえるか？</p> <p>メロスは勇者といえると思いますか？</p> <p>◆メロスがいくつかの試練(困難)の乗り越えていることに注目させる。</p> <p>◆本文中の「勇者」という表現に注目し、再度検討する。</p>	<p>作品には「勇者」って書かれてあるけど、行動を見る限りでは、なんだか「勇者」とは言えない気がする。</p> <p>友人を人質にするなんてひどいよ。行動が無責任というか、自分勝手。</p> <p>途中くらいまでは自分勝手だな、と思ったけど、最終的にはいろんなことを乗り越えたから、勇者なのかも。</p> <p>メロスも困難を乗り越えて、成長したのかな。</p>
4	<p>(学習課題④) メロスが一番成長したのはどこか。</p> <p>メロスの考えが一番変わったのはどこかな？</p> <p>◆本文中の叙述をもとに、メロスが最も変化したと思う部分について検討する。</p>	<p>1～3日目には大きな変化はなさそうだから、4日目かな。</p>

5

(学習課題⑤) フィロストラスの場面は必要か？

困難を乗り越えて、メロスは大きく変わったのですね。ところで、メロスが最後走っている場面で出てくるフィロストラス。この時点でメロスは変わっているから、いらない気がするのですが、みなさんはどう思いますか。

なるほど。でもみなさん、最初のほうに、登場人物で、重要な順に並べてもらったときにフィロストラスはいらないとやってた人も多かったよね。

6

(本時)

(学習課題⑥) フィロストラス登場の意味とは？

「走れメロス」の作者はなぜこのフィロストラスの場面を設定したのでしょうか。

★1 「走れメロス」の基となったシラー作「人質」のフィロストラスの場面を読み、作者が書き換えをした部分を中心に、作者がこの場面を描いた理由を考える。

4日目、メロスが濁流、山賊、自身の疲れ(弱さ)を乗り越えたあとな。自分自身を乗り越えて強くなったんじゃないか

「走れ！メロス」の部分。自分自身を励まし、最後走り出したから。タイトルにもなっているし、メロスが再スタートする、山場だと思うな。

たしかに。フィロストラスが出てくる場面では、すでにメロスは走っているから、この場面はなくてもあまり影響がなさそうだね。

最後メロスをもうひとがんばりさせるというか…あおっていて必要なようにも感じるけど。

あったほうが、クライマックス！という感じがして盛り上がるのかな。なくてもいいけど、あったほうがより面白い、って感じかな。

なくてもいいと思ったけど、ないとなんか不自然だし、なければいけない気がする…。

「走れメロス」に原作があったなんて。この原作から少しずつ変更しているけど、フィロストラスのシーンはほぼ変えられていないだね。

フィロストラスの設定が、メロスの忠僕から、セリヌンティウスの弟子に変わっているよ。セリヌンティウスにより近い人物にしたのかな。

「人質」では間に合わなかったときの話をしているけど、「走れメロス」では、間に合う間に合わないは問題ではない、とっているね。信じられているから走る、っていうメロスの思いが強く感じられる気がする。

7

(学習課題⑦)「一人の少女」登場の意味とは？

最初に「走れメロス」を読んだときに「一人の少女はなんで出てくるの？」や、結末に疑問をもった人も多かったですが、シラーの「人質」の結末はどうかな。比べてみましょう。

セリヌンティウスが待っていたことを初めて知るのはこの場面だね。ここがなければメロスはずっと一人よがりだった。だから、作者はこの場面を描いたのかな。

別にいらなと思ってた登場人物だったけど、こんな意味があったとは！もしかすると、他の登場人物にも意味があるのかな…

「一人の少女」が出てこない！これは「走れメロス」で新たに出てくるキャラクターなんだね。

「人質」のほうは、王様が「仲間に入れてくれ」と願い出るところで終わっているんだ。二人の友情の印象が強く残るね。

なんで原作にないのに、わざわざ「一人の少女」を登場させたのかな？

え！映画では、一人の少女の場面は全部カットされてるよ…。せっかく付け加えたのに、いらなかったってこと？

映画は、王を追放するところで終わるんだね。「人質」と同じで、友情のすばらしさがメインになっているけど、一人の少女が出てくる方が人間らしくていいけどなあ。

シラーや、映画の監督は「友情」を描きたかったけど、太宰はそれだけでなく、メロスの成長とか、メロス自身をもっと描きたかったのかもしれないね。それを描くためには、この結末、一人の少女が必要だったんじゃないかな。

実はこの「走れメロス」、アニメーションで映画化されたのです。その映画では、最後はこのように描かれています。

★2 アニメーション映画「走れメロス」の結末部と比較し、小説「走れメロス」に登場する一人の少女の登場の効果について考える。

8

単元を振り返る。

・単元学習前の「走れメロス」についての記述を振り返り、今の自分の思いや考えを振り返りで記述するように促す。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・フィロストラトスの場面がメロスや作品全体に与える効果について、自分の言葉で語り直すことができる。
- ・「走れメロス」の作品に対する「ものがたり」の変容を、メロスの人間的な成長の観点から、自分の言葉で語り直すことができる。

(2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
1 本文を音読する。		
学習課題：「フィロストラトス」登場の意味とは？		
2 「走れメロス」の基となったシラー作「人質」のフィロストラトスの場面を読み、太宰が書き換えをした部分を中心に検討する。 (四人組→全体)		★シラー「人質」と比較させる。 ○考えをまとめる際、必ず根拠を明確にするようにする。 ○「フィロストラトス登場の場面で描かれたこと」に論点を絞り、語り合う。
<p>T : 「走れメロス」執筆の基となった「人質」を読んでもらいました。このフィロストラトスの場面について、太宰治がシラーの「人質」から変更しているところはどこでしょうか。</p> <p>S 1 : 「人質」では、フィロストラトスはメロスの忠僕だけだけど「走れメロス」ではセリヌンティウスの弟子になっています。</p> <p>T : 今、フィロストラトスの設定が変わっているという意見がありました。「走れメロス」の作者は、フィロストラトスの設定を変えていますね。これはなぜだと思いますか？4人班で少し話してみましょう。</p> <p>S 3 : メロスに近い人物から、セリヌンティウスに近い人物にしているところが大事だと思うんですが…。「セリヌンティウスがずっとメロスを信じて待っていた」ということを描くために、この設定にしたのかなと思いました。</p> <p>S 4 : ここの場面まで、メロスはずっと自分一人の力で走ってきたし、「セリヌンティウスが待っていてくれる」、というのも自分で思い込んでいるだけで…。だけど、セリヌンティウスがはりつけになってからずっと近くで見ていた弟子のフィロストラトスが、「セリヌンティウスが待っていてくれた」という事実を教えてくれた、という設定にすることで友のためになんとしてでも走らなければという気持ちになったメロスを描きたかったのかな。</p> <p>T : この場面で、他に比較して気づいたことはありますか。</p> <p>S 2 : 「人質」では間に合わなかったときの話をしているけど、「走れメロス」では、間に合う間に合わないは問題ではない、といっています。「走れメロス」の方が信じられているから走る、っていうメロスの思いが強く描かれている気がしました。</p> <p>S 3 : 「人質」では「胸しめるけられる想ひ」とメロスの気持ちを表現しているけど、「走れメロス」では「胸のはりさける思い」になっていて、こみあげてくるものや、走る意志の強さを感じます。</p> <p>S 4 : 必要なければカットしたり、とりあえずそのまま残しておけばよいところを、作者が設定を変えたり表現を変えたりしているから、ここの部分にはさっきS 2さんたちが言っていたような、作者の意図がこめられているのだと思いました。</p> <p>T : S 2さん、これまでの意見を聞いてどうですか？</p> <p>S 2 : やはり「走れメロス」のこの部分は必要だな、と思いました。メロスは、きっとセリヌンティウスは待っていてくれる、と信じて困難を自分の力で乗り越えたと思います。そして、走り出した後、フィロストラトスによって、友が待っていてくれると確信しました。ここでフィロストラトスが出てこなかったら、メロスは、「ひとりよがり」なままだったと思います。この場面で、メロスは、自分が信じられていることを知ることができたんじゃないかな…。ただなんとなくあるシーンではなくて、作者が絶対に必要だと思って、あえて色々修正しながら描いたように感じました。</p>		

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
3 「走れメロス」における、フィロストラトスの存在の意味について、意見を交流する。	<p>○フィロストラトスがいることによって、話が盛り上がるだけでなく、メロスの「走ること」への決意がより伝わってくるな。</p> <p>○刑場に向かうメロスに、「あきらめる」という選択肢を与えるという役割なのかもしれない。</p>	<p>○シラーの作品と比較し、考えたことをもとに、フィロストラトスの存在が、作品全体にどのような効果を与えているか改めて考えさせる。</p>
4 本時を振り返る。	<p>○フィロストラトスは必要ない、と思っていたけれど、この場面は困難を乗り越えたメロスの覚悟を表現する上で、欠かせないと思った。</p> <p>○初めに読んだとき、「いらない」と思った人物はたくさんいたけれどきつとその人物にも何か意味があるのだろう。</p>	<p>○初読時の自身の考えを振り返り、フィロストラトス以外の登場人物にも注目させる。（「一人の少女」、「老爺」、「メロスの妹」など）</p>

7 見取り

- ・単元の終末部で書く最終批評文において、「走れメロス」におけるフィロストラトスの場面がメロスや作品全体に与える効果について、特にメロスの心情に関する観点から自分の言葉で語り直すことができているか。
- ・単元後の振り返りにおいて、「走れメロス」の作品に対する「ものがたり」の変容から、言葉への認識を捉え直す「自己に引きつけた語り」が生まれているか。